

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171300197		
法人名	有限会社 恵コーポレーション		
事業所名	グループホーム紅葉館		
所在地	北広島市虹ヶ丘8丁目2番11号		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成25年12月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0171300197-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 11 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域社会の一員として地域に貢献するという理念に基づき、町内会活動への積極的な参加を志しています。
・入居者同士の円滑な共同生活を実現するため、ユニット間での交流に力を入れています。
・入居者一人ひとりの意欲や関心を尊重するため、食事に関しては特別メニュー（リクエストランチ・ディナー）を月1回以上実施しています。また、外食の機会を設けて食の楽しさを感じてもらおうよう外食ツアーも実施しています。
・お花見、花火大会、夏祭りなどの行事を月1回以上実施して漫然となりがちな生活にメリハリをつけるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の中には介護度の重い方がいますが、食事はミキサー食で全介助、入浴は職員2人介助で対応を行うなどきめ細かい支援によって、生活を支えています。さらに地域との関わりも良好です。日頃から外出を多く取り入れ、外食の機会では、職員の食事作りの負担を軽減しています。入居者の希望に添った支援を目指して努力しています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I .理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を作成し、毎日の朝礼で唱和している。また、運営理念を踏まえたユニット目標を作成し、実際のケアに繋げるよう努めている。	ユニットごとに理念の実践を目標にした項目を掲げ、日々のケア目標で理念の具現化を目指しています。職員が自ら考えて取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あらかじめ予定表を作成し、町内会主催行事やスポーツ交流活動にも積極的に参加することで、地域住民との交流を活性化している。また、町内会で行われているフラワーロード事業にも参加している。	地域の行事計画をホームの行事に取り組み、計画の中で話し合い、出来る限り入居者が参加できるように努力しています。日頃から近所と交流があります。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議などに参加し、地域貢献できるよう努めている。また、中学生の体験学習を受け入れや、小学生総合学習支援へ補助スタッフとして参加した。			
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回（二ヵ月に一度）運営推進会議を開催し、サービス実施状況や事故報告をして、話し合いの場を設けている。			運営推進会議は2ヵ月ごとに入居者の居間で、ホームの様子を拝見できる体制で開催されています。充実した内容で家族にも報告されています。家族の参加が少なく、参加要請が更に徹底されることが求められます。
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず市役所職員の参加をいただき連帯を図っている。			市役所職員が率先して運営推進会議に出席し、良好な関係づくりがされています。連携を大切にしてケアの向上を図っています。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていない。無断外出しようとする入居者に対しては玄関チャイム設置のほか、外出の機会を設けて気分転換できるように努めている。また、身体拘束となる具体的な行為の理解を深めるため、内・外部の研修を利用している。	職員研修の場を多く持ち、身体拘束のないケアに取り組んでいます。玄関の施錠は夜間のみとし、日中は工夫と努力で拘束のないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修などに参加して、虐待防止について学ぶ機会を持ち、防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度利用している入居者がおり、知識を学ぶ機会がある。また、外部の研修に参加して、権利擁護についても深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には十分な説明に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や要望があった件について積極的に反映するように努めている。	行事や日常生活について利用者や家族は遠慮なく意見が言える間柄になっています。具体的には要望が外食に反映された事例もあります。利用者の声に耳を傾け職員で共有し、更に会議などで検討しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議や全体会議などから職員の意見や提案を聞いている。 それを踏まえて代表者への提言を行い運営に反映させるかを話し合いで決定している。	ユニット会議や全体会議で意見や提案を行い、職員全体で考えて、出来ることから取り組んでいます。管理者は要望などを受け止め、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件の整備は適法に行われている。又、本人の努力・勤務態度に応じて各種資格手当の付与や正社員への雇用などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはできるだけ参加できるよう努めている。内部研修はフローア会議により取り上げ実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会の会員として、協会主催の研修に参加している。又、地域包括支援センター実施の地域ケア会議や北広島市介護サービス連絡協議会の会員として同業者と情報交換に努めている。 市内のグループホームとの見学交流会にも参加して		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成者が中心となって初回面談を行いご入居前に訪問してご本人・ご家族・介護担当者からアセスメントを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日常生活の様子を説明し、不安や要望について耳を傾け応えていけるよう努め、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用としては協力医療機関の往診・通院・介護タクシーなどその都度本人、ご家族と相談して同意を得た上で実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニット同士の交流を図ったり、行事などの参加を促進して、入居者同士だけでなく地域との関わりを持てるよう工夫している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出レクリエーション、行事、受信などの都度ご家族に連絡を取り、意見を求めたり、承認を求めたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域活動や行事の中で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	ホームに入居してからの馴染みがあり、日常的に係わりを深く持ち、親しく交流をしています。外部から定期的に訪れるボランティアの活動は利用者の楽しみとなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット同士の交流レクリエーション、行事などを通して人間関係が閉鎖的にならないように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば都度、地域包括支援センターなどに相談している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らしの希望などは計画作成担当者が中心となってその把握に努めている。 必要とあればケアプランに反映するようにしている。	利用者の動作や表情から思いや意向を汲み取る努力を重ね、笑顔が出る行事等を工夫しています。音楽や映画など楽しみを多く取り入れています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	計画作成が中心となって、ご本人・家族などから聴取した内容を記録として残し他の職員にも伝達できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活レベルの微妙な変化に応じて、その都度対応を考えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族とは来館時、または電話にて連絡を取り意見や要望を聴取している。 スタッフ間においても、担当者会議を開いて意見を出し合いケアプランに反映して、実行されるようにモニタリングしている。	日常の生活記録や家族の意見、本人の要望などを考慮した介護計画を作り、毎月会議でモニタリングし、日々のケアに実践しています。変化があると即対応し見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝礼後、遅番者の出勤時、夜勤者の出勤時の計3回の申し送りを実施している。計画作成担当者や管理者を交えて、必要であればケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自施設でまかなえない部分は、外部サービスなどに繋げるにより、多様なニーズに応えるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は市のサービスガイド、社会福祉協議会のサービス支援情報を通して把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には隔週で火曜日歯科受診については、その都度連絡しながら、往診に来てもらっている。 その他にも必要な場合には通院が出来るように配慮している。	身近な往診医師が月2回、訪問看護が週1回訪問して健康管理に携わっています。また、24時間対応の医療機関が身近にあり、利用者、家族の安心につながっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関から、週 1 回訪問看護と 2 週に 1 回の往診を受けて、日々の相談や受診の必要性などを指導してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関への入退院については、病院ソーシャルワーカーや病棟の看護師などを通して、情報交換し相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に入居者が重度化した場合の指針についてはあらかじめ説明し、文書で同意をもらっている。実際に重度化した場合にも再度ご家族と十分に打ち合わせ意向を聴くように努めている。	高齢の方や介護度の高い方もおり、契約時に家族と文書で同意をいただいています。なお、重度化した場合等については、その都度関係者と話し合い本人本位に判断して対応するように努力をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年 2 回夜間想定で避難訓練を実施している。緊急時のマニュアルを整備し、事故発生時に備えて緊急時の連絡網を作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年 2 回避難訓練を実施している。また、同業種である向かいの「華れん」さんに訓練時に同席してもらっている。運営推進会議などを通して地域との協力関係を築くよう努めている。	年に 2 回夜間想定での避難訓練を実施し、特に 2 階の方を 2 名の職員で抱いて一階に運ぶ訓練をするなど、災害への取り組みを強化しています。運営推進会議などで地域の方々の協力を依頼しています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の人格を尊重し、個人情報把握してその人にあった言葉かけなど細かい配慮をして対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話などの中で本人の思いや希望を表し自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各種活動への参加の声掛けを行っているが、参加は任意であり無理強いにはならないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪をとかしたり、服を選ぶお手伝いなどに応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が出来ることは限られてきているが、中でも後片付けや食器洗い、調理補助などは行ってもらっている。	献立と食材は業者からですが、調理や盛り付けは出来る範囲で利用者も加わり、楽しく食事をしていきます。食事介助は一人ひとりに寄り添ってミキサー食にするなど、本人本位に支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲水量や食事の摂取量を毎回記録し、主治医・訪問看護師との連帯に情報を活かしている。また、一人ひとりに応じた食事形態で提供できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。 必要であれば協力医療機関の歯科医院と連帯を取って治療なども行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	座位のとれる方には出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。 排泄記録をから自立に向けた支援に努めている。	全面的排泄介助の方を除いては、自立に向けた取り組みをしています。排泄記録からパターンを把握し、声かけの誘導を実践しています。トイレはゆったりとした造りで車椅子利用者の対応も容易です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水量や排泄状況を記録し、把握に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	設備や人員が限られているため、完全に一人ひとりの希望に添うことは難しいが、なるべく個々に添った支援をしている。	浴室は三方向から介助が出来る浴槽の配置で、特浴対応の装置が付属品にあり、1名もしくは2名介助で支援しています。本人の希望に添えるように努力をして個々の希望に添った対応をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間は適時にとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用表などを整備し、個別ケースファイルに記している。変更があった際にはその都度情報を更新し、周知するとともに、その後の様子観察にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	室内活動のほか、近所の体育館に出向いて、卓球やボッチャ教室、映画上映会などにも参加して出かけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩を始め各行事において、暖かい季節では外出行事を取り入れており、町内会のお祭りや紅葉狩りなど外出活動を積極的に行っている。また、町内会親睦会など町内会活動にも地域の人たちの協力の下参加している。	天候に左右されますが、出来る限り外出の機会を多くつくるように屋外行事を取り入れ、利用者の楽しみとなっています。町内会の行事を年間計画に組み入れ、地域と密着した展開をしています。おやつは利用者と共に買い物にでかけて購入しています。車椅子の方も特殊車両で外出できる体制になっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は自由に本人管理しているが、それ以外の方に対しては全てホームが立て替えて買い物などの行為を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用することが出来るが、電話をする人は限られている。また、執拗に同じ所に同じ内容のの電話をしたり、テレビショッピングに電話する行為も見られる為、ご家族と相談しながら進めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間や居室は常に掃除を行い、湿度計・温度計を設置し、室温調整も適切に行われている。壁飾りなどで季節感を取り入れるようにしている。	全体的に温かみのある暖色系で、ゆったりとした造りです。中央にくつろぐ場があり、台所から利用者の動きが把握できる間取りになっています。壁面を利用して写真などが掲示してあり、季節の飾りつけもみられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者自身がそれぞれの居場所を見つけている。また、気の合った入居者同士が歓談されたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室についてはなるべく自宅で使用していた物品や思い出の品を置いてもらえるよう家族に話している。	本人が落ち着いて暮らせるように、調度品を持ち込み馴染みの居場所づくりをして各自が自分の部屋として、湿度や換気にも配慮があり快適に過ごしています。仏壇を置いている方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、わかりやすい作りになっている。 「できること」「できないこと」を見極め、できるだけ自立した暮らしが出来るよう支援している。		